

令和5年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

大田区立矢口中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・授業に関する関心が高まり、実践的・体験的な学習をより多く行うことによって生徒が意欲的に学習に取り組む様子が見られた。
- ・ICTを活用した場面を増やして、他者と協力して学ぶ活動を多く取り入れることによってより深い学びができた。

(2) 課題

- ・機械や工具に関する理解が低いため、丁寧に指導する必要がある。また、作業の進度に差ができたことで一斉指導が難しかった。
- ・知識・技能の習得だけでなく、実際の生活に生かそうとする実践的な態度を養う授業づくりを行うことが課題である。
- ・ものづくりに対する関心や意欲はあるが、生活の中でのものづくり体験に乏しい。

2 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
道具や機械の正しい使い方を丁寧に教えていく。できない生徒には個別指導を行う。 机間指導での個別指導やアドバイスなどを適宜行う。	レポートや発表、調べ学習などを取り入れて、学び合う授業を行う。 ふり返しシートを活用し、気づきや発見などを書かせ、自己の表現力を高めていく。	ICTを有効的に活用し、わかりやすい授業を行う。 生徒個々の考えの変化や気付きなどが生徒自身でみえるようなふり返しシートを用いて授業の記録を行う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ICTを活用して作業動画の配信や資料の配布を行い、作業効率を向上させる。また、課題がある生徒への個別対応の時間を確保する。	製作において、まとめて作らせずに、一つ一つ行程をチェックしながら指導を行う。 作品の講評会を授業内で行い、自己の作品の良いところなどの発表を行う。	生徒の関心・意欲をより引き出すように、作った作品を実生活でどのように使用するかを考えさせる。 授業の振り返りを行う時間を設け、自分の言葉で学んだことや分かったことについてまとめさせる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業数の少ないなかでもきちんとした知識が身に付くよう、ワークを活用する。 製作過程において適宜技能テストを実施し、より高い技能の習得を目指す。	学習内容を踏まえた作品のデザイン・設計を行い、目的に応じた作品製作を行う。 作品製作の計画を立て、毎時間見直すことで、見直しをもつ力をつけるとともに、計画を修正したりしてよりよいものを作	生徒間での意見交換や教えあいの時間をつくり、自分の考えを他者に伝える機会を増やす。

	るための工夫をする。	
--	------------	--